

大空 —放哉だより—

第162号 2025.2.5

発行:小豆島尾崎放哉記念館 〒761-4106土庄町本町甲1082 ☎62-0037

放哉は友人知人に宛て、南郷庵から多数の書簡を送っています。小豆島での生活については勿論のこと、お礼状、人間関係、句評、会社員時代のこと等々。書簡は「尾崎放哉」を知るための大切な資料のひとつです。その中から一高時代に熱中していたことについて書かれている書簡を紹介し、勉学に励み、読書や短歌など文学ばかりの学生時代というイメージもあるかもしれませんが、それだけではなかったようです。



大正十四年二月七日 放哉から飯尾星城子あて書簡（一部抜粋）

※放哉全集第二巻より

私ハ学校ニ居たトキ運動ズキデ（三年間一高ノ寄宿舎で剣道、柔道、テニス、なんでもヤツタが上手にならぬ）——（中略）——ベースボールはやらなんだ——（中略）——（ボート）は無闇にスキでね……マダ其頃ハ第二、「日比谷公園」が無かつた、従而、「警視庁」も「帝国劇場」もソシモノかげも形ちも無いアノ辺一帯ハ日本橋通り迄……草茫々たる、広い野原デ、我々ハ（三菱カ原）と呼んで居た、——（中略）——扱、話しが此、電車がマダ無かつた事から私の（ボート狂）ニ話しが、逆もどりするのです。本郷（一高、大学ノアル処）から……勿論……電車ハ無いのに、（ボート）の艇庫が……隅田川の吾妻橋のも一ツ、テマイに両国橋との間に厩橋と云ふのがあります其の橋のそばニ一高の艇庫がありました、そして、（ボート）ハ皆、そこニアルから、（ボート）に乗りたければ、厩橋迄行かねばならぬ……若イ元氣ハエライもんですネ……毎日／＼学校がスムと（午後二時頃）……一同で、テク／＼本郷から、隅田川の厩橋迄歩いたものですよ、——（中略）練習後——つかれて、ヘト／＼二なつてゐるのに、……本郷迄帰つて、食堂ニとび込んで、……盛ニ喰ふ、ホントに、十杯位其位タベタでせうな、……とても電車が出来てからの学生には、出来ない芸当ですね、……デスカラ、人間は、どうにでもナルものですよ、（文明ナラ文明の様ニ、不便なら不便の様に、ナント力押し付けて行きますな、呵々）

扱、此ノ（ボート）の熱心、ムナシからず遂ニ（ボート）丈けは……上手になつて（矢張り私ハ水や海がスキなんだ呵々）……



一高ボート部・前列左が放哉

2月



日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	
●放哉だより発行日 □記念館休館日 □資料館休館日						

第24回放哉ジュニア賞

今回もたくさん応募いただき、ありがとうございます。現在、選考委員による審査が行われています。授賞式は4月7日（月）、放哉忌で執り行います。

